



わが半生、人との出会い

薄 田 勝 男 (31回卒)

近況を報告しないまま、だいぶ年月が過ぎてしまいました。40年前の1984（昭和59）年に福島県立医科大学を卒業した薄田勝男です。

最初に、2011（平成23）年3月11日に津波と原発事故で未曾有の災害となった東日本大震災で、犠牲となった方々に心から哀悼の意を伝えたいと思います。私の実家も避難対象地域でしたが、津波や原発事故で避難せざるを得なかった多くの方々のご苦労に心を痛めています。そして、地震発生後長期にわたって力を惜しまず、復興に携わっている福島県立医科大学関係の多くの皆様のご尽力に対し、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私の半生は、人との出会いが転機となり、その時々で決断と選択をし、家族と一緒に前に進んできました。「思えば、だいぶ遠くに来たもんだ」と思います。

福島県立医科大学卒業後、東北大学呼吸器外科学に入局し、外科・呼吸器外科・気管支鏡・臨床細胞診等に従事しました。日中は臨床に従事し、夕方から深夜にかけては先輩や同僚と一緒に研究に従事する日々で、とても懐かしい思い出です。9年かけて論文にて医学博士号を取得し、1994（平成6）年4月から仙台厚生病院外科に、その後1999（平成11）年9月からいわき共立病院呼吸器外科に勤務になりました。

人生のターニングポイントとなった出来事が3つあります。

その一つが、いわき共立病院呼吸器外科の先輩の池田道昭先生のもとに、富山大学医学部から光学医療診療部の助教授の公募があったことです。私は以前から研究がしたいと思っていましたので、池田先生に勧められ応募したところ、幸運に

も私を選んでいただき、2000（平成12）年7月に富山市に転居しました。実は、薄田家のルーツが富山県と判明し、里帰りした様な不思議な感覚を覚えました。

富山大学の光学医療診療部では、気管支鏡検査および治療の教育および指導を行い、呼吸器外科の診療も行いました。上司の田中三千雄先生が、私に胃カメラ検査法を教えてください、2004（平成16）年に米国Cleveland Clinic, Pulmonary and Critical Care Medicineに留学させてくれました。米国の最先端の医療の現場を経験しました。2004（平成16）年Cleveland Clinicでは年間60数例の肺移植が行われ全米一位となりました。Atul C. Mehta先生の計らいで、American college of Chest physicians (ACCP) の資格を取得しました。

人生のターニングポイントとなった出来事の2つ目が、金沢医科大学呼吸器外科学に赴任していた佐久間勉教授・佐川元保先生からお誘いがあり、2007（平成19）年に金沢医科大学呼吸器外科学に異動となったことです。私は本来の呼吸器外科の診療に戻り、低侵襲手術である胸腔鏡下手術等にも取り組みました。患者様の病気を外科治療で治せることに喜びを感じました。

人生のターニングポイントとなった出来事の3つ目は、金沢医科大学放射線科学の的場宗孝先生がMRI拡散強調画像の研究をされており、私が研究者として人生を捧げるメインテーマと出会えたことです。肺癌・肺腫瘍・縦隔腫瘍・胸膜病変について、MRIの拡散強調画像の有用性について、研究成果をまとめました。PET-CTに比較し、安価で放射線被ばくがなく、早期の治療効果判定が可能といったMRI検査の優れた点を、一般の皆様幅広く啓蒙し、同時に専門家の方々にも十分に知って

いただくため、Blog「薄田勝男MRI教室 (<https://usuda-mri.com>)」を立ち上げています。MRIは、肺腫瘍の良悪性の鑑別、肺癌のN因子・M因子・病期診断、および血管縦隔浸潤の評価、縦隔病変や胸膜病変の良悪の評価、さらには肺癌の化学療法や放射線治療の効果判定に有用です。DWIBS (ドゥイブス法: Diffusion-weighted whole-body imaging with background suppression、全身性拡散強調画像) を用いると、全身の転移病変を1回の検査で検索でき、PET-CTがない病院でも十分代用可能です。

若い研究者の皆様が、今後の新しいMRIの研究に興味を持ち、さらに前進させていただければとても嬉しいです。肺病変であっても、他臓器と同様に、被ばくのない体に優しいMRI検査が、適切に世界の肺癌の診療ガイドラインに取り上げられ、肺腫瘍・肺癌の評価に多用されるのを期待しています。

私は、福井市の嶋田病院院長から誘われ、62歳の時に金沢医科大学を離れて、リハビリテーション医療に携わりました。リハビリテーションが必要な脳卒中の患者を多く診療しています。脳梗塞急性期の診断にMRI拡散強調画像は必須であり、発症後4.5時間以内であれば血栓溶解療法が選択されることは広く知られています。肺癌でのMRIの拡散強調画像の経験が、脳卒中患者の頭部MRI評価に役立っています。

最後に、1999 (平成11) 年にStanford University

のKrumboltz. J. D教授によって提唱されたPlanned Happenstance (プラントハップンスタンス理論) を紹介いたします。「計画された偶然」と訳され、「キャリアというものは偶然の要素によって8割が左右され、偶然に対してポジティブなスタンスでいる方がキャリアアップにつながる」という理論です。これからの若い方々の生き方の参考になれば幸いです。

この原稿が世に出る2024 (令和6) 年春には、私が働いている福井市は100年に一度のチャンスといわれる北陸新幹線の開業で大いに盛り上がっていることだろうと思います。

皆様、機会がありましたら、ぜひ北陸に遊びにいらしてください。そして兼六園がある金沢、恐竜の福井、日本三霊山である立山・白山にもお立ち寄りください。

福井県福井市

医療法人健康会 嶋田病院

内科・リハビリテーション科 薄田 勝男

<https://usuda-mri.com>





立山連峰 富山県



Cleveland Clinic, Pulmonary and Critical Care Medicine
左：Atul C. Mehta先生とその秘書 右：気管支鏡室のスタッフ



金沢医科大学呼吸器外科のスタッフ



白山 石川県



嶋田病院のスタッフ